

＜ 今日の説教のポイント 詩編 14 編 ＞

①ルターが最初に研究した聖書。信仰者が見出した神に注目。

詩編は旧約聖書の民イスラエルの信仰者の詩を集めたものです。宗教改革者ルターはまずこの詩編の研究から始めて、聖書の神様はどのようなお方なのかを見出しました。大事な点です。

②(1 節)「愚かな者」を「神を知らぬ者」と訳し変えた理由は？

1 節の「神を知らぬ者」の原意は「愚か者」です。すなわち、愚か者は心に言う、「神などない」と。という訳となります。この二つの訳から分かることは、神など存在しないと考えるのは愚かだ、と言っているのです。

③(2-6 節) 主を見つめ出す時、全てが変わる！

それにしても「善を行う者はいない」と 1, 3 節で二度も語り、全体にちょっと暗過ぎるように思いませんか？ しかし、この信仰者は人間だけ見つめているのではなく、神様をも見つめています、「主は天から人の子らを見渡し、探される」。信仰者は、人間ではなく、愛と義に富み給う神様の中に希望の根拠を持つのです！

④(4-6 節) 主は神の民を設けられ、その民を守られる！

さらに、「わたしの民」と言われ、「神は従う人々の群れにいます」と記されている点にも注目です。聖書の神は、神対人（個人）ではなく、神対民、あるいは神対「その民の中の個人」で考えておられる神なのです。新約聖書のイエス様も同じです。主イエスを頭とする教会の枝となりなさい、と呼びかけておられます（ヨハネ 10, 15 章）。この教会が「神の家族」（エフェソ 2:19）と呼ばれ、聖書を読んで初めて知らされる、神様からの新しい恵みの一つです。

⑤(7 節) 主が救いの主体者！ イエス・キリストの出来事！

「主がご自分の民、捕らわれ人を連れ帰られるとき」、ここで大事なことは、「私たちが頑張ったら救われるのだ」と言われているのではなく、「主が私たちを救い出して下さる」と言われているということです。「そのために神様は独り子イエス様をお与え下さったのだ」、と新約聖書は伝えるのです。パウロがそのことを今日の個所詩編 14 編を引用して語っています（ローマ 3:9-26）。